塚山古墳群

古墳時代後期（およそ 1,400 年前）には、小さな古墳が密集して築かれる現象が全国的にみられ、これを「**群集墳**」と呼んでいます。赤穂市ではこの時期の古墳が約 200 基確認されており、その中でも 150 基以上の古墳が密集しているのがここ千種川以東の有年原・有年牟礼地区です。

有年牟礼地区の塚山古墳群は市内最大かつ西播磨で有数の群集墳で約 60 基の古墳で構成されています。市内最大級の石室をもつ**塚山６号墳**（Ⅰ－6 号墳、県史跡）を含みますが、それぞれの古墳の発掘調査はほとんど行われていません。

塚山古墳群はⅠ～Ⅲの支群に分けられています。

第Ⅰ支群は平地から丘陵裾にかけて立地するⅠ－1～22 号墳と、丘陵上に立地するⅠ－23 ～ 31号墳とに分かれており、さらにそれぞれ小さな群にまとまっています。

第Ⅱ支群は丘陵裾に古墳が集中しており、Ⅱ－1～８号墳までの比較的小さな古墳と、Ⅱ－9 ～ 15 号墳の大きな古墳に分布が分かれています。ここにはⅠ－6号墳に次ぐ規模の古墳が多数あり、その多くは石室の中に入ることもできます。

第Ⅲ支群は丘陵尾根上に散漫に分布し、Ⅲ－3 号墳が大型の石室です。

有年原・有年牟礼地区の古墳等の分布

祇園塚型石室

この時期の古墳の埋葬施設は、横から入ることができる横穴式石室を持つものが一般的ですが、塚山古墳群には周辺地域ではあまり見られない玄門状の施設「間仕切り」をもつ「**祇園塚型石室**」が合計５基確認されています。この間仕切りの用途は明らかにはなっていませんが、類例はヤマト政権のあった近畿地方よりも、九州や四国をはじめとした西方に求めることができるため、渡来系氏族との関係が指摘されています。

塚山古墳群で最大規模を誇る塚山６号墳（Ⅰ－6 号墳）の墳丘は 15.8m×17.5mの大きさを測り、周溝もよく残されています。横穴式石室の全長は現状 10.3mで、袖部には立柱石を、玄室内部には間仕切りをもつ祇園塚型石室です。

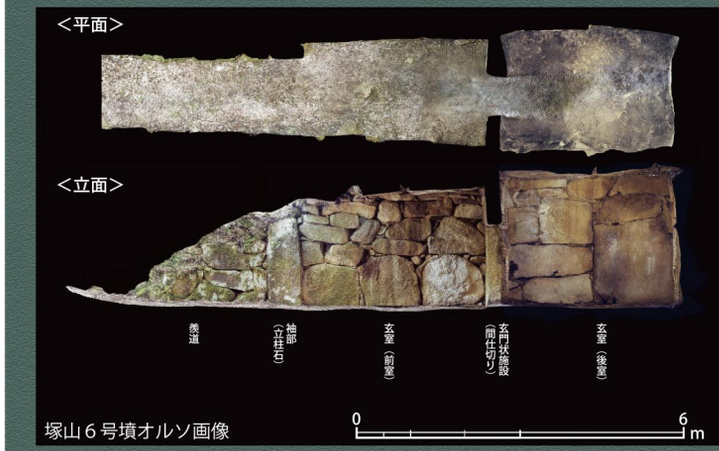
祇園塚型石室は、赤穂市有年楢原にある野田２号墳を最古例とし、塚山古墳群を中心として展開していきます。この石室は、古墳群のなかで必ずしも大きな古墳にのみ採用されているわけではありませんが、古墳群中で最大規模のものには採用されていることから、古墳群のなかでの階層性や被葬者の集団差などを反映していると考えられています。

塚山６号墳出土遺物

兵庫県赤穂市

塚山古墳群

塚山６号墳（兵庫県指定史跡）



塚山６号墳オルソ画像

赤穂市教育委員会

塚山古墳群散策マップ

---------- おすすめ散策ルート　　赤色は祇園塚型石室

※整備された道があるわけではありません。
野生動物等によく注意して見学してください。
入口扉は必ず閉めてください。

N

0　50　100　200 m

Ⅱ-14 号墳

Ⅱ-15 号墳

Ⅱ-12 号墳

Ⅱ-12 号墳周辺

Ⅱ-10 号墳

Ⅱ-9 号墳

Ⅱ-6 号墳

Ⅱ-6 号墳

Ⅲ-3
Ⅲ-4
Ⅲ-8
Ⅲ-9
Ⅲ-2
Ⅲ-1
Ⅲ-5
Ⅲ-6
Ⅲ-7
急斜面
注　意
中池
Ⅱ-15（外護列石）
Ⅱ-14
Ⅱ-12
Ⅱ-10
Ⅱ-16
Ⅱ-13
Ⅱ-11
Ⅱ-9
Ⅱ-6
砂防堰堤
Ⅱ-8
Ⅱ-5
Ⅱ-4
Ⅱ-7
Ⅱ-3
Ⅱ-1
Ⅱ-2
溝を渡る
倒木
Ⅰ-17
Ⅰ-18
Ⅰ-14
Ⅰ-28
Ⅰ-16
Ⅰ-13
Ⅰ-8
谷を回り込む
（上に上らない）
Ⅰ-27
Ⅰ-15
Ⅰ-29
Ⅰ-26
Ⅰ-12
Ⅰ-6
Ⅰ-4
Ⅰ-23
シダ多い
Ⅰ-5
Ⅰ-24
Ⅰ-25
Ⅰ-9
Ⅰ-11
Ⅰ-7
Ⅰ-10
Ⅰ-1
Ⅰ-30
Ⅰ-21
Ⅰ-3
Ⅰ-31
入口扉
解説板
Ⅰ-22
フェンス際
道が悪い
Ⅰ-2
開けた後は
必ず閉めて
ください
Ⅰ-20
Ⅰ-19
西池
国道2号方面

第Ⅰ支群

Ⅰ-1 号墳

Ⅰ-6 号墳